

● 家族や、悩みを分かち合える「ママ友」や、飲みに誘ってくれる仕事や趣味の仲間たちが、育児を支えてくれた

最も不安だったのは、育児面。ママでなければどうにも乗り越えられない育児の局面がたくさんあるのではないかと、ということだ。しかしスタートしてみれば、これも杞憂だった。ちょうど僕の育児開始にあわせて卒乳が上手くいったこと、また、近所の「ママ友」たちが、僕に選手交代した後も変わらず仲間に加えてくれて、悩みを分かち合い、一緒にリフレッシュしてきたこと、そして仕事や趣味の仲間達が、時折、飲みに誘ってくれたこと。妻と、ススムと、大切な仲間が、僕の育児を支えてくれたのだ。(略)

最終日、育児休業の日々を記したブログを僕はこうしめくくった。・・・仕事はチーム・プレー。代役は必要。でも、ススムの父は、妻のパートナーは世界で僕だけだ。理想論かもしれないけれど、明るい家庭がよい人間を育て、よい社会をつくるに違いない。だから、何より、家族と、そして自分自身が大事なんだ。「あなたの子でよかった」と僕が親に思うごとく、いつかススムが僕にそう思ってくれるように、そうして家族の絆がいつまでも続くように、心から願う。

● 夫の育休取得後も休む間もなく育児に明け暮れる妻に、いつか好きな仕事をしてほしいとの思いを強くした

本当に重要なことは、「育休を取得すること」ではなく、「育休中に何をし、何を得られたか」ということなのだ。3人目が生まれた今も、妻は当然休むまもなく育児に明け暮れている。これが本当の育児だ。育休取得後、妻にもいつか好きな仕事をしてほしいとの思いがより強くなった。最近では自分の仕事が忙しく、平日に夕食を一緒に食べることが減ってしまった。まだまだ反省すべき点は多い。やはり少しでも長く子どもの成長を間近で見ていたい。今いろいろな思いが頭の中で蠢いている。仕事をしないと生きていけないという決定的な事実も存在する。ただ、夢を実行に移したことは、仕事でも積極的に主張すれば実現できるという自信を与えてくれたのも確かだ。自分自身の働き方も積極的に変えていかなければならない。

● 新しい家族を迎える変化のときに、安心して過ごせた

休業期間はあっという間に過ぎましたが、私と妻には子どもが増え、息子は兄になりました。この大きな変化の中、家族が共に過ごすことができました。休業を取得してもしなくても、子どもへの愛情が変わることはないでしょうし、短期間の休業が、その後の成長を左右するとも思いません。ですが、私は、本当に良かったと感じています。家族のそれぞれにとって、大きな変化が生じる時期に、私も妻も安心して過ごすことができました。

● 育休中に子どもたちの友達とも一緒に遊んだことで、

子どもの話の登場人物がわかるように

子どもたちの友だち関係が分かったことは、復帰した今でも役立っています。休業中、自分の子どもだけでなく、子どもの友だちにも自分の子どもと同様な接し方をしようと思い、遊びにきた友達が挨拶をしないと注意したり、公園で一緒に遊んだりして、積極的に関ったことで名前と顔を覚え、その後、子どもの話の中に出てくる登場人物が手に取るように分かることは、育休を取らないと出来ないことでした。また、それに付随してPTA活動に参加したり、保育園のイモ掘りに参加したりして、親同士のつながりや先生、保育士さんとのつながり、地域とのつながりができたことはその後の生活に潤いをもたらすものでした。

3-13

「絆(きずな)」

平林陽さん

- ①公務員
- ②1,000～4,999人
- ③30代前半
- ④1年間

3-16

「夢の実現」

吉田大樹さん

- ①出版業、記者
- ②0～99人
- ③20代前後半
- ④1か月間

2-05

「自分にとって大切なこと」

匿名

- ①公務員
- ③20代後半
- ④2か月間

4-17

「ジョン・レノンを目指して」

高野通宏さん

- ①会社員
- ②1,000～4,999人
- ③30代後半
- ④3か月間



4 楽しむ子育て

育児休業の醍醐味は、子どもと一緒に過ごせること。パパたちの子育てとは？

先輩育休
パパから

- 母乳が出ないことがパパ育児の関門。昔ながらの方法で乗り切った
- 家族でいろいろな料理にチャレンジ！
- 思い通りに進まないことはあるけれども、徐々に赤ちゃんが何を要求しているのかわかるように
- 今までは人から教えられた我が子の「初めて」。育休取得でその瞬間を自分の目で
- パパもママも一緒に育児スタートすれば、パパも子育てを続けていける

- なかなか寝てくれないわが子。行き着いた方法は「おんぶ」

そこで、何とか気分よく、1時間でも2時間でも寝てくれないかな、ということが育休初期の課題になりました。ところが、今まで、おっぱいを飲みながら、気分よく寝ていた息子は、おっぱいなしにはなかなか寝てくれません。そんななかで、苦心した上で編み出した方法が、昔ながらのおんぶでした。10キロを超える息子をおんぶして、ときには1時間近くも歩き続けることもありました。後になって聞いたことですが、近所のお年寄りの中では、「近頃、赤ん坊をおんぶしている男の人がいる」とちょっと気になる存在であったようです。おんぶをすると、背中が暖かさなのか、気分よく寝てくれたので、それが日課となりました。知り合いの子どもからは、「オンブマン」と呼ばれるように。そして、そんな規則正しい生活のせいか、私が5キロもダイエットすることにもなりました。

4-02

「オンブマン」

石井聡さん

- ①公務員
- ②300～999人
- ③30代後半
- ④1年間

- 餃子作りに悪戦苦闘！仕事帰りのママの登場でおいしい餃子が完成
- 育休後半。パン作りを皮切りに子供達との料理に味をしめたパパは餃子作りを計画しました。上2人は野菜切りの大事な戦力。ところが相次ぐ流血騒ぎ(ちょびつとですが)。娘はもらい泣き。時計の針だけは絶好調。そして妻の「ただいま～」のご機嫌な声。餃子になると思われる具と皮を見つめる妻。沈黙。餃子の皮ならぬ暗黒に包まれていく我が家……。

その時、妻が光を照らしてくれました。笑顔に切替え腕まくり。パパのこねた皮に子供達の具をママが包んで、最高に美味しい餃子が出来ました。仕事で疲れているのに「もう一歩」。笑顔で頑張る妻に感動しました。夫が育休を取っているのが仕事上プレッシャーになっているはず。諸々を飲み込んで前に進む妻の覚悟。頭が下がります。う～ん、ビールが美味しい！

ところで、成功したチャレンジも勿論あります。幼稚園バザー-用手芸品作り、上2人の勉強机DIY、わらべ歌と子守歌のレパートリー百曲、中高一貫校でのスポーツ講演会etc.。地域活動にも参加出来ました。

4-11

「夫が父に変わるとき-2回目
目のプロポーズ」

斎藤仁丸さん

- ①会社員
- ②5,000人～
- ③30代後半
- ④1年6か月間

● 子どものとびきりの笑顔につられて、時間も忘れて一緒に笑った
 育児休業中の役割は、お風呂、布おむつや衣服の洗濯、寝かしつけなどです。一緒にいることで、ちょっとしたサインにも気付きました。縦抱きじゃないとぐずる、声をあげないあくびは眠い時に必ずする。何気ないしぐさ一つひとつに立ち会えたこと、何を要求しているのかを肌で感じられたことが、子育て中の醍醐味でした。大変だったのは授乳です。取得期間中に望んでいた、妻が外出し子どもとふたりきりの時間を持った時のことです。母乳を冷凍して保存しておいたのですが、人肌に温めてからでないとい飲ませられないので、準備に時間がかかってしまう。妻から目安として3時間間隔と聞いていたので、頃合をみてやってみたものの・・・涙を流しながら泣く姿には、ただ「ごめんね」としか言えませんでした。でも、お腹が満たされればとびきりの笑顔に変わるので、時間も忘れて一緒になって笑っていました。

4-12
 「短期間でも取得できる育児休業」

坂下和広さん
 ①地方公務員
 ③20代後半
 ④2週間

● 子どもの「初めて」の瞬間に出会えたのは、育休のおかげ
 実際に育児休業に入ると、オムツの洗濯や離乳食作り、またその他の家事などやるのが盛りだくさんで慣れるまではかなり疲れました。子どもが寝ている時間しか掃除や洗濯をこなす時間はないわけですが、その頃私の子どもは抱っこをしていないと目を覚ます状態でしたので、ハイハイする我が子を気にしながら掃除や洗濯をするということになってしまいました。これがなかなか難しく、工夫しながら何とか家事と育児をした記憶があります。しかし、そんな中、苦勞をしながらも育休中は子どもとずっと一緒ですから、つかまり立ちが初めてできたり、伝い歩きを初めてしたりといった瞬間を見ることができました。保育園に預けていると、できましたよと報告された後でそれを見ますのでやっぱり感動が全く違います。そんな瞬間を父親の私が見ることができたのはやはり育児休業を取ったおかげなのかなと思っています。

4-19
 「私の育休体験記」

匿名
 ①公務員
 ②300～999人
 ③20代後半
 ④2か月間

もう一つ感じたことは、仕事をしていると時間があっという間に過ぎてしまいますが、子どもと2人の時間はゆっくり流れていた気がします。そのゆったりとした時間の中で過ごすことで、私も和やかな気持ちで育休中は過ごせた気がします。子どもの少しの成長を間近で見ることができた幸せは仕事に復帰した今、改めて感じているところです

● 子どもが生まれたときから親子三人四脚なら、
 パパだってママと同じように子育てできる
 近所の育児教室で、よそのお母さんから「パパが抱っこしても泣かないのね」と言われました。

4-22
 「育父休暇」

宮下拓さん
 ①会社員
 ③30代後半
 ④2か月間

生まれてからずっと抱っこし続けて、下手なりに子が慣れてくれました。育休をとらなかつたら、同じように泣かれて「俺じゃだめだ。ママお願い」となったかもしれません。おむつ替えも同じことでしょう。母子の二人三脚に父親が途中から参加しようにも、すぐに足並みがそろわない。だから父親は早々に自信を失い、育児から脱落してきたのでしょう。ヨーイドンから三人四脚なら、パパだって、抱っこもおむつも、ママと同じように普通にやれるのになあ、と思いました。

数十グラム増減しては一喜一憂し、へその緒が取れたことに驚き、夜泣きて途方に暮れ、ベビーバスの排泄に慌て、あくび、くしゃみなどに笑う毎日。日々ささやかな感動を妻と共有できた2ヵ月間でした。



5 育休取得の効果

育休経験がもたらした育児と仕事の好循環。育休がもたらしたさまざまな変化

先輩育休
パパから

- 子育てすることで、人間的に成長。思いやる気持ちや謙虚さを身に着けた
- 育休中の経験を基に、仕事で、コミュニティ活動で、さらに活躍
- 育休に快く送り出してくれた職場に感謝。仕事にも一層力が入るように
- 育休取得者の登場で、職場が成長
- 夫婦両方が家事も育児もできるから、お互いにフォローし合える関係に
- 仕事の質と速度を向上させて早く帰ることで、仕事も生活も充実

● 思いやる気持ちが一層強くなり、部署のメンバーやお客様とのコミュニケーションなどを大切にしつつ困難なテーマにチャレンジ
結局、3週間の育児休業であったが、私にとって非常に有意義な時間であった。赤ちゃんと一緒にいられたことは、個の尊さ、周囲の協力への感謝を想起させ、人を思いやる気持ちがますます強くなった。このことは、今、私の仕事に取り組む姿勢に繋がっており、部署のメンバーやお客様とコミュニケーション、コラボレーションを大切にしながら常に困難なテーマにチャレンジしている。仕事と生活の両立は何よりも仕事面で高いパフォーマンスを挙げるために必須であると強く感じた。家族、上司を含め、協力してくれたすべての方には感謝の気持ちでいっぱいである。

5-02
「自分の成長のために」

- 岩上誠さん
- ①会社員
 - ②1,000～4,999人
 - ③30代前半
 - ④3週間

● 夫婦両方に子育てに対する当事者意識が根付き、一方が多忙でも他方がフォローできるように
夫婦両方が休業を経験することで、子育てに対する当事者意識が均等に根付きます。そうなれば、一方の仕事が多忙なとき、他方が育児をフォローできる。「両立」が容易になります。私の場合、保育園入園につながる期間に休業したため、必然的に入園の準備や手続きを担当することになり、妻よりも保育園に詳しくなりました。その勢いで、学校についても主に関わるようになり、妻に偏らない、我が家独特の育児分担が確立しました。それが一番大きな効果です。育児時間を確保するため、職場では定時退庁や計画的な休暇取得を意識するようになり、以前にも増して効率的な業務遂行を心がけるようになりました。

5-05
「育休はパパを「子育ての当事者」にする」

- 阪本真一さん
- ①公務員
 - ②300～999人
 - ③30代後半
 - ④6か月間

● 経験を活かして男性の子育て参画促進に向けて積極的に活動
また、育休後も、
○後輩からの相談にのり、男性の取得第2号（それも9か月間）誕生に貢献
○おやじの会の全国組織「おやじ日本」の創設と運営への協力。PTA活動への参画
○職場の「特定事業主行動計画」策定への協力（経験からの助言）
○出向先（三重県）での体験談の講話（県庁職員や県立高校職員会議に対して）など、経験を生かして男性の育休取得や子育て参画促進に向けた啓発活動に努めることはもちろん、保育園の送りは毎日、迎えも週2日以上は担うなど、ワーク・ライフ・バランスのとれた働き方・生き方を実践し、身をもって範を示しているつもりである。

5-08
「文部科学省で初めて育休を取得して」

- 坪田知広さん
- ①国家公務員
 - ②1,000～4,999人
 - ③30代前半
 - ④3か月間